

小学生の 音楽

6

指導者用デジタル教科書（教材） 音声テキスト

本資料は「指導者用デジタル教科書（教材）」に収録されている映像資料の音声をテキストにしたものです。本教材に関連した資料を作成される際の参考として、ご活用ください。なお、音声解説の無い映像資料は、一部割愛しております。

目次

P. 11 歌声 1	2
P. 32 和音の音で旋律づくり..... <small>せんりつ</small>	2
和音と低音	2
学習活動 1	2
学習活動 2	2
P. 37 指揮のまねをしてみよう..... <small>しき</small>	3
P. 76 オーケストラの主な楽器.....	4
フルート.....	4
オーボエ.....	4
クラリネット.....	4
ファゴット.....	4
トランペット.....	4
ホルン.....	4
トロンボーン.....	4
チューバ.....	4
バイオリン.....	4

ビオラ.....	4
チェロ.....	4
コントラバス.....	4
ティンパニ.....	4
シンバル.....	4
P. 78, 79 日本の古典芸能.....	5
笛.....	5
こつづみ 小鼓.....	5
おおつづみ 大鼓.....	6
たいこ 太鼓.....	6
ふとざおじゃみせん 太棹三味線.....	7
ほそざおじゃみせん 細棹三味線.....	7
さんしん 三線.....	7

P. 11 歌声 1

「明日という大空」では、高い音から低い音へ、音が飛んでいるところが、いくつかあります。

旋律の音の動きが上下していると、こんな感じになりやすいですね。

鼻の付け根から目のあたりに、ひびきをひびかせるようにしてみましょう。美しいひびきになりますよ。

P. 32 和音の音で旋律づくり

和音と低音

最初に、画面の楽譜の和音と低音をきいて、ひびきの移り変わりを確かめましょう。

学習活動 1

次に、画面に表示されている、和音にふくまれる音を、左から順に、一つずつ選び、旋律をつくれます。音の上がり下がりを考えながら、音を選んでつくりましょう。

「私はこんな音の動きの旋律をつくりました。」

学習活動 2

今度は、旋律をつくるリズムの、2分音符のリズムを変えて、つくってみましょう。2分音符は、4分音符や8分音符などを使って、このように、2分音符と同じ長さのリズムに、変えることができます。

「のんびりとした旋律にするために、音の高さがあまり変わらないようにして、リズムも2分音符と4分音符を使いました。」

P. 37 指揮しきのまねをしてみよう

指揮しきは、速度を示したり、音楽の始まりや終わりのタイミングを合わせたりするなどの役割やくわりを持っています。さらに、演奏えんそうする音楽の雰囲気ふんいきや、強弱の表情を演奏者えんそうに伝えて、表現を豊かにするという、大切な役割やくわりも持っています。これは、2拍子びょうしの指揮しきの例です。「ハンガリー舞曲 第5番」は4分の2拍子びょうしでできています。音楽をよくききながら、強さや速さの変化に合わせて、指揮しきのまねをしてみましよう。

1拍目ぼくめの位置を、はっきりと分かるように示すことが、大切なポイントです。

P. 76 オーケストラの主な楽器

フルート

これは、フルートです。

オーボエ

これは、オーボエです。

クラリネット

これは、クラリネットです。

ファゴット

これは、ファゴットです。

トランペット

これは、トランペットです。

ホルン

これは、ホルンです。

トロンボーン

これは、トロンボーンです。

チューバ

これは、チューバです。

バイオリン

これは、バイオリンです。

ビオラ

これは、ビオラです。

チェロ

これは、チェロです。

コントラバス

これは、コントラバスです。

ティンパニ

これは、ティンパニです。

シンバル

これは、シンバルです。

P. 78, 79 日本の古典芸能

笛

これは、笛です。日本の笛にはさまざまな種類があり、能で用いられる笛のことを、「能管^{のうかん}」と
いいます。笛は、このように構えます。能の囃子^{はやし}で用いられる4つの楽器のことを、「四拍子^{しびょうし}」
といいますが、能の囃子^{はやし}では、笛も旋律^{せんりつ}をなめらかにふくのではなく、リズムを打つように演奏^{えんそう}
します。能管^{のうかん}は、このあたりに「喉^{のど}」とよ^よ呼ばれる細い管が入っているため、管の内径が細くなっ
ており、独特な調律^{ちやうりつ}になっています。

こつづみ 小鼓

これは、こつづみ^{こつづみ}です。こつづみ^{こつづみ}は、打ち方や「調緒^{しらべお}」とよ^よ呼ばれるものにぎり具合を変えて、音を出
します。こつづみ^{こつづみ}は、このように構えます。打つ音とかけ声^{えんそう}を組み合わせで演奏^{えんそう}します。

これは、「チ」です。調緒^{しらべお}をにぎったまま、薬指で打ちます。

これは、「タ」です。調緒^{しらべお}をにぎったまま、薬指と中指で打ちます。

これは、「フ」です。人さし指で打ち、打ったしゅん^{しらべお}間に調緒^{しらべお}をにぎってはなします。

これは、「ポ」です。全ての指で打ち、打ったしゅん^{しらべお}間に調緒^{しらべお}をにぎってはなします。

おおつづみ
大鼓

これは、^{おおつづみ}大鼓です。^{こつづみ}小鼓より一回り大きく、^{かん}かん高く^{ひびく}ひびく音が^{とくちょう}特徴です。^{おおつづみ}大鼓は、このように構えます。打つ音とかけ声を組み合わせて^{えんそう}演奏します。^{おおつづみ}大鼓を打つときには、大きな音が出るように、右手の中指と薬指に、^{ゆびかわ}「指皮」をはめます。また、手を保護するために、「あて皮」をします。

これは、「ドン」です。小さく打ちます。

これは、「チョン」です。大きく打ちます。

たいこ
太鼓

これは、^{たいこ}太鼓です。両面の皮をひもで^{しめだいこ}しめた、「締太鼓」です。このような^{せんよう}専用の台に楽器をかけて、ゆかにすえます。2本の^{ばち}ばちで、音を出します。^{たいこ}太鼓は、このように構えます。打つ音とかけ声を組み合わせて^{えんそう}演奏します。

これは、^{おお}「大バチ」です。大きな音で打ちます。

これは、^{ちゅう}「中バチ」です。中ぐらいの音で打ちます。

これは、^{かた}「肩バチ」です。左手に持った^{ばち}ばちを、右かたに^{かつ}担いで打ちます。

これは、^{きざ}「刻ミ」です。^{ばち}ばちで皮をおさえて、音をひびかせずに打ちます。

ふとざおじやみせん 太棹三味線

これは、太棹三味線です。文楽の音楽として生まれた、「義太夫節」などで演奏されます。義太夫節

の三味線は、棹が太くて胴が大きく、ばちは、このような形をしています。音が低く、豊かなひびきが特徴です。

ふとざおじやみせん えんそう
太棹三味線の演奏をきこう。

ほそざおじやみせん 細棹三味線

これは、細棹三味線です。歌舞伎の音楽として生まれた、「長唄」などで演奏されます。長唄の

三味線は、「義太夫節」の三味線に比べると、棹が細く、胴にはられた皮もうすめで、ばちは、このような形をしています。するどく、歯切れのよい音色が特徴です。

ほそざおじやみせん えんそう
細棹三味線の演奏をきこう。

さんしん 三線

くみおどり りゅうきゅう きゅうてい えんそう
組踊の音楽は、琉球王国の宮廷で演奏されていた音楽が、元になっています。三線をひき

ながら歌う、「歌三線」を中心に、笛やことなどで演奏します。三線の原型とされる楽器は、中

国から伝えられました。琉球王国の時代、三線は、氏族の男子など、限られた人たちが演奏

をしていましたが、現在では、多くの人たちに親しまれ、沖縄の音楽を代表する楽器となっています。三線の棹の部分は、沖縄の言葉で「ソー」、胴の部分は、「チーガ」といいます。三味線に比べて、ソーは長さが短く、チーガも小さめです。またチーガには、ニシキヘビの皮が、張られています。温かみのある、柔らかい音色が特徴です。

さんしん えんそう
三線の演奏をきこう。